

朝鮮高校にも差別なく無償化適用を求めるネットワーク愛知 会報

도토리 통신

どとり通信 第9号



目 次

■原告側の準備書面（4）要旨	・・・	1
■原告番号3番 意見陳述	・・・	2
■原告番号5番 意見陳述	・・・	4
■2013年度会計報告 2014年度予算	・・・	7



原告側の準備書面(4)要旨

文=熊谷考人（弁護士）

■第1：準備書面(4)の意義

内閣の閣僚らの説明によれば、朝鮮高級学校の生徒だけを不合理に差別し、高校無償化の対象から除外してきた理由として、日朝間の外交問題に関して朝鮮高級学校の生徒に支援を与えないことによって朝鮮民主主義人民共和国に圧力をかけるという制裁の点と、税金を投入して朝鮮高級学校の生徒を支援すべきではないという一部国民の感情を「民意」と見做し、それに迎合する形での排除がなされてきた点が挙げられます。

そこで、準備書面(4)では、1980年代以降の日朝関係の中で、在日朝鮮人に対する社会的差別と在日朝鮮人を対象とした朝鮮民主主義人民共和国への制裁が相互補完的に発展し、高校無償化制度における朝鮮高級学校の生徒への差別のバックボーンが形成された過程を概説しました。

■第2：日朝首脳会談以降の日朝関係と在日朝鮮人への制裁強化・差別の広がり

1980年代、日朝両政府は懸案事項を抱えつつも、在日朝鮮人が直接制裁の対象とされることはなく、国交正常化に向けた交渉を進める動きも見られました。

もっとも、1990年代に入り、日朝国交正常化交渉が頓挫すると、日朝関係が悪化する中で、在日朝鮮人や朝鮮学校への制裁が始まり、2002年の日朝首脳会談で拉致事件が発覚し、朝鮮民主主義人民共和国や朝鮮総連をバッシングする世論が空前の高まりを見せる中で、日本政府は、拉致事件には何の責任もない一般の在日朝鮮人や朝鮮学校に通う子ども達に対する権利制限を次々に行い、軽微な事件の刑事事件化等により在日朝鮮人を危険視する世論をさらに高めていきました。朝鮮民主主義人民共和国との間で外交問題が起る度に、日本政府が制裁

的な弾圧を加えることで、朝鮮共和国との間の外交に何の影響力も持ち得ない在日朝鮮人や朝鮮学校に通う子ども達を「北朝鮮」問題と結び付けて考えることが当然視され、朝鮮民主主義人民共和国に圧力を加えるために、在日朝鮮人や朝鮮学校生徒への弾圧を求める声が上がるようになり、今回の朝鮮学校に対する高校無償化不適用の問題が登場してきたということを詳細な事実経過とともに主張しました。



裁判報告集会にて解説をする愛知弁護団

■第3：結論

日本社会に根強く存在した朝鮮人への偏見は、日朝首脳会談の後、拉致事件への怒りによって拡大の一途を辿り、朝鮮民主主義人民共和国に関わりがあるとされると、在日朝鮮人に対する権利の制約も、その根拠、必要性、損害等について冷静かつ公正に検証されることなく許容されてしまう社会状況が生まれました。

このことは朝鮮学校も例外ではなく、本件就学支援金の支給に関しても、朝鮮学校が他の外国人学校に比して著しく差別的取扱いを受ける事態に至ったのは、朝鮮学校側に排除されるべき問題が存在したのではなく、日朝首脳会談以降の朝鮮民主主義人民共和国に対する「制裁強化」の一環と、同国への悪感情の高まりの中で政治的に導かれたものであるとの結論を主張しました。

原告番号3番意見陳述

1

僕は幼稚園の頃から朝鮮学校へと通い始めました。小中・高校と朝鮮学校に通い、今は＊＊＊＊ています。最初は自分が望んで朝鮮学校を選んだというよりも、兄や従兄など知り合いが多いことからアボジ、オモニが選んで通わせてくれました。幼稚園では朝鮮語を使って話しますが、家でもたまに朝鮮語で話していたのであまり気にしていませんでした。小学校からは友達も増え、授業では本格的に朝鮮語を習い、民族教育を受けながらたくさんの事を学びました。

近所では日本学校の子とも仲良くなり、一緒に遊びましたが朝鮮語を話せるのは自分だけだったのもあって、少しずつ在日同胞社会というものを知り、自然と自分は朝鮮人だと理解していったのだと思います。

中学、高校と進学し、さらに深く民族教育を受けながら祖国と同胞社会の強いつながりを学ぶ中で、愛国心や愛族心が自然と芽生えました。

僕が学級委員長をやっていた時のことが、あるクラス委員が自分の事情でクラス委員の仕事ができなかつたときに、クラスの他の友達が自分の部活の時間を犠牲にして助けてくれたことがあります。学級委員長をやっていたので、そういう場面に何度もでくわしたのですが、人のために自分を犠牲に出来るこの同胞社会がすごく好きになり、朝鮮学校へと通うことが自分の誇りにさえ感じました。

その中で一世、二世の同胞達が作り発展させてきたこの社会を、今度は三、四世の僕たちが守っていかなければと決心しました。

2

朝鮮学校に通い一番誇れる点は、いろんな人達とともに深い関係を築けたことです。

朝鮮学校でたくさんのこと教えてくれた先生は、異国に
地に生まれた僕たちに我が民族を教え、人間として生き
ていくまでのすべてを教えていただきました。勉強や社会
常識を教えてもらうだけではない、深い関係は、朝鮮学校
だったからこそ築けたと思います。

朝鮮学校の友だちからは、日本人の友だちに朝鮮人だと知られて避けられたというような話を沢山聞いていま

す。朝鮮人だと聞くだけで同じ人として扱われていない
ように感じるのが当たり前のように感じてしまいます。

この学校で出会った仲間達は、日本社会で当たり前のこととなってしまった差別と闘うなかで、日本という国に一番近くて一番遠い国となる「祖国」を想い自分たちの未来について真剣に語り合った同志達です。

高校無償化問題などを通じて朝鮮学校を支援してくれる日本の方々にも出会うことができました。心無い罵声などに屈しないで僕たちのことを応援してくれる日本の方々は、勇気と希望をあたえてくれた恩師です。

朝鮮学校では、文化祭や運動会がとても楽しい思い出でした。それは、ただ自分たちの自己満足ではなく、O B・OGなど沢山の同胞の人たちも参加してくれるからです。そこで、僕たちが同胞の人たちを勇気づけられることもありますし、同胞社会での連帯を感じられます。

そして、何よりも民族を愛し、苦しい生活の中でも子供のために朝鮮学校へと通わせてくれたアボジ、オモニには心のそこから感謝しています。日本学校のことは分かりませんが、日本学校へと通っていたとしてもここまでの関係は築けなかつたはずです。それは苦しい環境の中でお互い助け合いながら共に成長してきたからです。

3

朝鮮学校では朝鮮の言葉や歴史、文化だけではなく日本社会で生きていく上で必要な常識や知識などたくさん学ぶことができます。

僕がある同胞の方とお話しさせていただいた時、朝鮮学校と日本学校は学業の面では大した差は無いが、日常的に話している言葉以外に大きく違うところがあると教えていただきました。それは両校とも大切にしている民族教育の教育方針の違いだとおっしゃいました。

日本学校は「自由主義」、悪くいうならば、「個人主義」というもので、朝鮮学校は、これとは違う「集団主義」というものです。

朝鮮学校では、クラスの中に二人一組のペアをつくって勉強をしています。成績の良い子と悪い子をペアにして、成績の良い子も勉強を教えながら成績を伸ばしていくという風に、勉強も一緒にになって励まし合いながら頑張ってきました。

集団主義を身につけるということは何よりも他人を思いやれるということです。一人がみんなのために、みんなが一人のために喜び、怒り、悲しむことを自然と身につけることが出来る学校は、日本の数万という学校のなかでもごくわずかなものだと思います。

朝鮮学校というものは在日同胞社会だけではなく現在の日本社会においても無くてはならないものなのです。

4

日本に朝鮮人として生まれ、朝鮮人として生きていく中でこれからもたくさんの壁にぶち当たると思いますが、僕は親につけてもらった三文字の名前を隠して生きて行こうとは微塵も思いません。それは在日同胞社会が、そして僕を育ってくれた朝鮮学校が大好きだからです。

朝鮮学校は日本で生きる僕が唯一朝鮮人だと認識出来る場でもあり、自らのルーツを学び自分がいったい何者なのかを学べる場です。異国の地でありながら自分と同じ民族の仲間たちと未来の同胞社会のために、共に助け合い高め合うことが出来るのはきっとこの朝鮮学校だけだと思います。自分だけではなく他人の喜びを自分の喜びのように、他人の悲しみを自分の悲しみのように感じることが出来る子供が自然と増えていく環境なのです。

そんな学校だからこそ、昔から今まで差別と闘いながら死に物狂いで守ってきたものであり、それだけの価値があるものだと思います。

5

高校無償化制度の話を初めて聞いた時、心の底から喜びました。うちは兄弟を全員朝鮮学校へと通わせるためには相当の学費がかかっていたので、共働きの両親の負担を少しでも軽くすることが出来たと思いました。

それなのになぜか朝鮮学校だけは適応されないことを聞き、日本政府に対しこれまでにないほどの怒りと悲しみを覚えました。朝鮮学校が総連組織と関係しているのが駄目だとか共和国での砲撃事件を問題としているだとかが、朝鮮学校へと通い普通の高校生活を楽しんでいるだけの学生たちに、なんの関係があるのでしょう。

それから僕らは署名活動や街頭宣伝など、一人でも多くの日本の方々に理解を得られるように活動をしてきました。学生の本分である学業や、部活に熱心に取り組みたくさんの事を学ぶ時間を割いてまで街に出て、本来やるべきことのなかった活動をしてきました。

街を歩く一人一人に声をかけることで理解し応援してくれる方々もたくさんいましたが、冷たい視線を送り、「金が欲しければ帰れよ」などとひどい罵声を浴びせる

人もいました。それが嫌で泣いてしまったクラスの女の子もいました。差別というものが根付いた日本社会のせいで、高校3年間というとても短く最高に楽しいはずである青春の大切な時間を使って、辛く苦しい体験をしなければならなくなってしまったのです。

6

朝鮮学校を卒業する生徒はみんなが、高校無償化問題を自分たちの代で解決出来なかつたこと悔やみ、後輩達に自分たちと同じ苦しみを体験させてしまうことに対して心の底からすまないという気持ちでいっぱいです。

今は、僕の弟が高校生となって苦しみながら日本政府と闘っていることを思うと何よりも悲しくなりますし、後輩達が涙を流しながら活動をしているのが本当に悔しいです。もしも何十年後かに自分の子供が同じ活動をやっていることを考えると恐ろしくてなりません。

日本政府は在日である僕達が集めた署名や意見を、日本の方々からの声や意見を聞いているふりをしますが、本当は最初から聞く気なんてひとつも無いのでしょうか。このままでは今の日本で生きる僕らも、植民地時代に日本の奴隸のようになっていた朝鮮人の方々も同じような立場になってしまうのではないか。

7

僕はこの朝鮮学校が大好きです。一世二世の同胞達が作り、発展してきたこの学校をこんどは僕らがもっと発展させ、守っていくことが使命なのだと思います。そのためにはこの高校無償化問題は決してうやむやにしていい問題ではありません。

テレビなどでこの問題が報道されることが少なくなってきたことによって世間では忘れられているのかもしれません、僕たちは何年経っても何があっても決して忘れない。今まで僕らのために朝鮮人や日本人に關係なくたくさんの方々に助けられました。日本の大学の先生や弁護士の方々からも諦めない心と勇気、そして勝利への希望をもらいました。この恩を返す方法はたった一つ、諦めず闘い続けて権利を勝ち取ることだと思います。もう二度と後輩達が涙を流さずにすむように、今までの恩を忘れないようにと原告になることを決めました。そしていつか朝鮮学校への高校無償化制度適用だけでなく、日本から差別がなくなり日本に暮らす同胞達が胸を張って生きていけるようになるまで闘っていこうと誓いました。日本政府が、朝鮮学校に対する考え方を改め一日でも早く謝罪と適切な対応を取ってくれることを望んでいます。

原告番号5番意見陳述

1

今回、私はこの裁判で自分の声を伝えられて光栄に思います。

私は在日三世です。2009年に愛知朝鮮中高級学校高級部に進み、今年3月に卒業しました。現在は、ある大学の1年生として勉強をしています。

私ははじめ、日本の保育園に通っていました。名前は通名ではなく、本名である朝鮮の名前を使っていたのですが、他の子たちとイントネーションの全く違う自分の名前に、コンプレックスを感じていました。その後も長らくの間、「変わっている」自分の名前に対するコンプレックスが消えることはありませんでした。名前についてのうっぷんを、父母に漏らしたこと多々あります。そのたびに父と母は、私にこう言ったのです。

「その名前は、ハンメ、ウェハンメ（父方の祖母、母方の祖母の方言での呼び名）の名前から一文字ずつ取って付けたの。一世のハンメたちの名前なの。」このように幼い頃から私は、自分のアイデンティティの基盤を、家庭教育を通して養ってきました。

名前の事から始まって、周りと自分との小さな違いを発見した時から今まで、私は日本社会の中で、「日本人である周りの人と、朝鮮人である自分」という違いを常に感じながら生きてきました。

私が原告になろうと最終的に決心したのは、昨年末、高校3年生の卒業をひかえた時期です。原告になるという事が決して軽い問題ではないということ、簡単に考えてはいけないという事も聞きました。正直たくさん悩みました。自分が原告になる事によって、将来になにか支障があるのではないか、在日朝鮮人だからと嫌がらせなどされないだろうか、もちろん、自分が皆の代表として法廷に立ち、意見をしっかりと述べられるのだろうか、という不安からくる悩みもありました。

卒業を目前に、3年間の思い出を振り返ってみるとが多くなりました。沢山の同胞たちと一緒に集まって行われた運動会や学園祭、クラブ活動で汗を流した事、毎日笑いながら、時々涙も流し、充実した生活をおくりました。

冒頭でもアイデンティティの事についてすこし述べま

したが、朝鮮学校での民族教育は、家庭教育によって養われていったアイデンティティを確固たるものにしてくれました。朝鮮の言葉や文化、歴史…これらを勉強するにつれて私は、朝鮮語が大好きになり、朝鮮の歌や舞踊を楽しみ、朝鮮の歴史をもっと知りたくなりました。そして「自分が何者であるか」をしっかりと認識するようになり、自分の民族について、自分自身について誇りを持つようになりました。もちろん、自分の名前にも。

しかし、そんな貴重な学校生活の隣には、常に、ウリハッキヨー朝鮮学校を高校無償化制度の対象から除外しようとする日本政府との闘争がありました。そして南北に分断された祖国に翻弄されている現実がありました。思い出せば思い出すほど、時間がたてば経つほどに、日本の人たちへ私たち朝鮮学生の気持ちを率直に伝えたいという気持ちは強くなって行きました。したがってこうした私の率直な気持ちと良心に従い、無償化裁判の原告になる事、今日この場に立つ事を決心しました。

2

3年間に及ぶ無償化闘争を通して、私は2つの矛盾を感じました。

第一は、「偏見」による差別です。

高校無償化適用の為の街頭宣伝は私にとって、無償化適用を訴える場でもあり、たくさんの日本の方々と接する機会でもありました。3年間を通して、幾度街頭に立ったかは覚えていません。しかしこの事だけはずっと記憶に残っています。高校1年の夏でした。その日私は初めて街頭に立ち、署名活動に参加しました。快く署名に応じてくれて、また、「頑張ってね。」と声を掛けてくれる日本の方、たまに「うるさい、帰れ。」などと罵声を浴びてくる人もいました。そんな中でも私がいちばん印象に残った言葉があります。それは、こんなものでした。・・・「朝鮮学校？なにそれ」

その時はただ、こんなに頑張っているのに、こんなに訴えているのに、自分たちの事を何も知らない人がいるんだ、という虚無感しかありませんでした。しかしそれは、その後約3年間の高校生活、そして今日までの大学生活の中で片時も忘れる事のできない追憶となり、深い傷となりました。

どうしてでしょうか。自身が成長してゆくにつれ、結局、「頑張ってね。」という言葉も「うるさい、帰れ」という言葉も本質は一緒なんだということに気付いてしまったのです。

私の祖父は、植民地時代、当時16歳のときに「日本へ行ったら勉強できる」とだまされ日本にきました。祖父は南北統一がなされたら祖国へ帰るんだと毎日言っていましたが、それは叶わず、私が小さいころに亡くなりました。南北統一もいまだ成されていません。祖父だけではありません。日本の植民地支配により、沢山の在日朝鮮人1世たちは、こうして日本へ渡らざるを得なかったのです。私たち在日朝鮮人は、皆、そんな彼らの子孫です。言わば過去の日本帝国の朝鮮半島植民地支配による負の遺産なのです。それ以外の何ものでもありません。スパイでも工作員でもありません。それは日本の過去の歴史清算がなされていないがゆえの、国民たちの間違った歴史認識による「偏見」です。

在日朝鮮人の歴史は、朝鮮人だけの歴史だと言えるのでしょうか？

いいえ、朝鮮があってこそ、日本があってこそ歴史であり、朝鮮人がいて、日本人がいたからこそ、在日朝鮮人が存在するのだと私は思います。だから、高校無償化問題とは、決して日本の人たちに関係のない事ではないのです。だけど、たくさんの方々がこの事実を知らないのです。日本の教育現場では、日本とアジアとの歴史や、私たちの存在について、教えられていないでしょう。したがって私は「頑張ってね」という応援の言葉にも、どこか第三者としての目線を感じて、ただ可哀想だからと同情されているような気がして、よそよそしさを感じるようになりました。「うるさい、帰れ」この言葉も同じです。正しい歴史認識がなされていたなら、こんな声は出ますでしょうか？「偏見」から誤解が生じ、差別が生じるのでです。ここに矛盾を感じるのでです。

第二は、「差別」を当たり前の事だと受け入れてしまっている在日朝鮮人自身の問題です。

よく無償化闘争のキヤッチフレーズに、こんなフレーズがあります。「私たちも、日本の高校生と何も変わらない学生です」というものです。たしかに、大まかなカテゴリの中では「高校生」という風に、お互い何も変わりありません。しかし朝鮮学生は、明らかに日本学生と違います。私たちの国語は朝鮮語です。朝鮮の歴史や文化を学んでいます。女学生らは制服としてチマ・チョゴリを身にまとい、食堂にはキムチが常備されています。

「国語が朝鮮語」このひとつを取っても、もうその時点で違うのです。その違いを主張せず「同じだ」と言わないと認めてもらえない、みんなと違うから差別があつて当たり前なんだ、そんな「日本社会からの同化圧力にしたがわなければならない」という考え方が今、在日朝鮮人自身の中にも存在してしまっているのです。無償化闘争を通して、日本社会におけるマイノリティである在日朝鮮人が、自身の自主権、つまり「他の人から介入を受けず、自分（たち）のありようについて自分（たち）で決める。」ということ、「在日朝鮮人が在日朝鮮人として、日本社会の中で堂々と生きること」を訴えるということは、マジョリティである日本人への「同化」に反対するという事です。ですが、「違う」という事を主張せず、むしろ「何も変わらないから認めてください。」という風にマジョリティである日本人におもねるということは、本質的には「同化」となにも変わらないのです。「同化」の方法で、自主権を主張する、これは明らかな矛盾です。

私が感じているこの2つの矛盾の根本原因是、同一のものだと考えます。それがまさしく、日本の社会構造です。「誤解や偏見、差別を黙認する—他を認めない」差別主義社会です。私は、この差別主義社会を作り立たせる極めて重要な要素は、「無知」だと思います。朝鮮学校は、総連系の学校だから、「北朝鮮」と連携を持っているから無償化を適用できない、という「メジャーな言い訳」があります。この言い訳こそ、「無知」による偏見だと言えます。

高3のとき、ちょうど高校無償化を朝鮮学校にも適用させるための緊急集会に参加した帰り、私がチョコリを着て地下鉄に乗っていると、とある日本の人からの変な視線をずっと感じました。「目があつってしまったので怖いな。」と思っていると、案の定、「北朝鮮人の野郎が、何が無償化だ。反日教育なんてとっととやめちまえ。近寄るな」といわれました。それに対して、怖くてなにも言い返せなかつた自分が悔しかつたです。

私は、祖国である朝鮮民主主義人民共和国（以下「朝鮮」といいます）が大好きです。これは、実際に祖国を訪問して覚えた感情です。私は民族教育の過程で、3度にわたり「朝鮮」を訪問しました。3度の訪問の中で一番印象にのこっているもの、それは、祖国—「朝鮮」の眞の姿です。日本のメディアによるバッシングとは裏腹に、「朝鮮」の人々は皆あたたかく、綺麗でした。笑顔がとっても眩しいのです。

しかし、私自身日本社会の中で暮らしながら、もし、こうして祖国を訪問していなかったなら、朝鮮学校で、「朝鮮」について学んでいなかったなら、決してこんな感情は抱かなかっただろう。祖国である「朝鮮」のことを知ったから、メディアによるバッシングも関係なしに、好きになったのです。歴史を学ぶことにより、私は「周りと違っていいんだ。」という事に気付いたのです。これははたして反日教育なのでしょうか。

皆が同じでなければならないのですか？皆が同じ考えをしなければならないのですか？「朝鮮」を好きではいけないのですか？違うと思います。10人いれば、10通りの顔があり、考えがあり、感情があります。それが100人、ひいては1億人に至るとも、この原理は全く同じです。だから、「朝鮮」を好きな人がいて当たり前なのです。皆がみんな、思う事、考えることは違うのです。これを詩人、金子みすゞも歌いました。「みんな違ってみんないい」と。

違いを認め合える社会、そして個々人の自主権が保障される社会こそが、眞の「美しい国」だと思います。その第一歩が、「知る事」から始まるのではないでしょうか。

これは高校無償化問題だけではなく、全てのことに関係していることだと思います。

「朝鮮」のことを本当に知っていますか？

在日朝鮮人のことをどれだけ知っていますか？

朝鮮学校のことを知っていますか？

3

私は勉強がしたくてたまりません。今日、今この時間にも大学では講義が行われています。なぜ私がそんな大

事な時間を割いて、自分のことを、わざわざさらけ出さなければいけないのですか。まだ親友にも、大切な人たちにも言ったことがない自分のプライベートを、この場で、裁判所で、発信しなければならないのですか。

しかし、ここで私が逃げたら、この「2つの矛盾」が解決することはありません。在日朝鮮人の自主権はありません。これから育ってゆく在日朝鮮人の子どもたちの未来に影が差してしまいます。1世のハルベ（おじいちゃん）、ハンメ（おばあちゃん）達も、自身の傷をさらけ出して、子孫たちに植民地時代のことを話してくれました。2世であるアボジ（お父さん）、オンマ（お母さん）も、日本の植民地支配のこと、南北分断のことを幼い時から教えてくれて、3世である私を立派な在日朝鮮人として育ててくれました。

ウリハッキヨー朝鮮学校は、私に「自分が何者であるか」を教えてくれました。

そんな私の、今のフィールドはここ、法廷です。

正直まだ怖いです。ですが、この裁判に勝利する時、この怖さや不安は無くなるでしょう。その時が来ると信じると、この裁判で自分の声を伝えられることを、むしろ光栄に思えるのです。

私が今日伝えたいのはただ一つだけです。「朝鮮」のこと、在日朝鮮人のこと、ウリハッキヨー朝鮮学校のことを知ってください、知ろうとしてください。これだけです。「無知」により傷つく人を、もうこれ以上増やさたくありません。良心のまま、私たちの心の声に一度、耳を傾けてみてください。

私たち朝鮮学生は、この声がみなさんには届くまで、叫び続けます。強く、強く闘い続けます。

【朝鮮高校無償化ネット愛知】の会員を広く募集しています！

◇ご入会をいただける方は、会費送金先の口座へ会費をご入金ください。

【会費】一口 1,000円／年間（一口以上）

※団体は三口以上ご協力いただけますと幸いです。

●ご入会いただいた方には季刊会報「トトリ通信」・裁判速報「トトリ通信瓦版」および各種案内をお送りいたします。
●カンパをご送金いただいた方も入会扱いとさせていただきます。（入会扱いとさせていただくことに不都合等がございましたらお申出下さい。）

●郵便振替払込口座（払込票を使用）以外の方法で送金され場合は、連絡先（住所、氏名、電話番号）を朝鮮高校無償化ネット愛知のe-mailまたはFAXにてご連絡下さい。

e-mail : kwangsins0322@gmail.com

FAX : 0562-97-1829 朝鮮高校無償化ネット愛知事務局

■会費送金先■

1. 郵便振替払込口座

口座番号：00810-9-198143

加入者名：朝鮮高校無償化ネット愛知

※「通信欄」に会費又はカンパとご記入下さい。

2. 他金融機関からゆうちょへの振込

銀行名：ゆうちょ銀行

店名：089（ゼロハチキュウ）店番：089

預金種目：当座預金 口座番号：0198143

名義：朝鮮高校無償化ネット愛知

3. イオ信用組合

イオ信用組合 名古屋支店 普通口座 1092042

名義：朝鮮高校無償化ネット愛知

■2013年度会計報告 (2013年1月1日～12月31日)

【収入の部】

・前年度繰越金	160,444
・会費 郵便・銀行振替口座 104件	1,300,960
現金30件	883,000
カンパ 60件	551,505
・参加費(集会資料代など)	144,500
・雑収入(グッズ売上など)	906,620
合 計	3,947,029

【支出の部】

・裁判関係費(訴訟費用、原告面会交通費など)	369,362
・会報発行費(トヨリ通信など)	527,273
・通信費(会報発送費など)	109,553
・印刷費(資料・チラシ等・印刷・コピー代など)	48,340
・事業費(講師謝礼・交通費・グッズ製作費など)	146,160
・会場費(決起集会・裁判報告集会など)	80,700
・活動・宣伝費(全国集会・弁護団会議交通費など)	85,420
・事務費(事務用品・紙代など)	16,329
・手数料(振替手数料)	3,630
合 計	1,386,767

【繰越金】

合 計	2,560,262
■2014年度 予算 (2014年1月1日～12月31日)	
【収入の部】	
・前年度繰越金	
・会費	
・カンパ	
・行事参加費	
・雑収入(グッズ販売・チャリティ企画など)	
合 計	2,560,262

【支出の部】

●弁護団活動経費	
・事務経費(資料・書類等コピー代@20,000×12か月)	240,000
・活動関係費(資料購入・裁判参加費・原告との活動費など)	500,000
・活動実費および予備費(弁護団会議交通費など)	500,000
小計・・・	1,240,000
●原告団・ネットワーク愛知活動経費	
・会報・傍聴チラシ・各種資料発行費	500,000
・通信費(会員への各種資料発送費など)	300,000
・印刷費(資料・各種案内・関係資料等印刷コピー代)	100,000
・事業費(講師謝礼交通費・グッズ製作代など)	200,000
・会場費(報告集会・各種行事など)	150,000
・原告活動費(裁判参加交通費など)	500,000
・公式サイト運営費	50,000
・事務局事務費(事務用品・紙代など)	200,000
・振込手数料	10,000
小計・・・	2,010,000
・次年度繰越金	2,460,262
合 計	5,660,262

朝鮮高校無償化ネット愛知

事務局より

2013年1月24日の第一次提訴から1年が経ちました。これまでに4回の口頭弁論が開かれ、そのたびに多くの方が傍聴券を求めて並んでくれました。傍聴席もいつもいっぱいになっています。

まずは、この裁判に対する暖かい支援に心からお礼を申し上げます。

口頭弁論では、原告やその保護者の方々が毎回法廷に立ち、朝鮮学校がいかに大切な存在力を訴えました。どの人の意見陳述を聞いても、朝鮮学校がそこに関わってきた在日朝鮮人のみなさんにとって、日本社会の排除、差別といった不安要因から自分たちを守ってくれた「安全な家」なのだということが実感できるものでした。そして、「高校無償化」から排除した日本政府の行為は、このような当事者にとって、安心して自らを否定することがなくいることができる場所を「攻撃」する行為なのだと改めて思った次第です。

2013年12月19日にさらに5名の生徒、卒業生が原告となって第二次提訴をいたしました。今後、原告10名でこの裁判を開くことになります。裁判が長期になることも予想されます。私たちネットワーク愛知も腰を据えて息切れしないように支援活動を展開していく決意でいます。みなさんの暖かく、そして熱い支援を今後ともよろしくお願ひします。

朝鮮高校にも差別なく無償化適用を求めるネットワーク愛知会報

とり通信 第9号

発行日：2014年1月30日

発行：朝鮮高校無償化ネット愛知

編集：USM(ウリハ・キヨサブ・トネットメソバ・ス)

連絡先：〒470-1168

愛知県豊明市栄町南館55

学校法人愛知朝鮮学園内

朝鮮高校無償化ネット愛知

Tel：0562-97-1815

Fax：0562-97-1829

Mail：kwangsin0822@gmail.com

裁判応援グッズ第二弾を作成しました!

2013年12月19日に愛知朝高の卒業生と生徒5名が第二次で提訴をいたしました。

これで、愛知は10名の原告で<無償化裁判>を闘うことになります。

ネットワーク愛知では、全面的に原告を支え、この裁判に関わっていこうと決意を新たにしています。

《原告を応援するために、ネットワーク愛知では裁判応援グッズ第二弾を作成しました。》



2013年3月に売り出したファイル3点セットに続き、

エコバッグと缶バッジ3種です。

ファイルで使用したデザインで作成しました。

エコバッグは、太陽をデザインしたものです。

デザイナーがこめた思いは

「太陽はお前たち(ウリハッキヨ)の味方だよ」です。

缶バッジは、ネットワーク愛知のロゴ、朝鮮学校の舞踊部の女生徒、愛知朝鮮中高級学校の校舎の一部をデザインしてもらいました。



【販売価格】

■ エコバッグ	1500円
■ 缶バッジ	1個 200円
	3個セット 500円

みなさまのご協力をお願いいたします。

購入希望の方、または、集会などの折に販売にご協力いただけるようでしたら、
下記までご一報ください。

【連絡先】 愛知県豊明市栄町南館 55

愛知朝鮮学園内 朝鮮高校無償化ネット愛知 李博之

Tel : 0562-97-1815

Fax : 0562-97-1829

Mail : kwangs in0322@gmail.com